

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 9月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	4073100309		
法人名	株式会社 福岡福祉会		
事業所名	グループホームアンクラージュ大橋南		
所在地	福岡県春日市桜ヶ丘8-29 〒816-0872 (電話) 092-593-2252		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成20年9月12日	評定確定日	平成20年10月21日

【情報提供票より】(平成 20年 6月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	7人
職員数	9人	常勤	8人 非常勤 1人 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート型 造り		
	6階建ての～ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	85,000～92,500円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(20万～50万円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または1日あたり		1,000円程度	

(4) 利用者の概要(6月1日現在)

登録人数	7名	男性	2名	女性	5名
要介護1	1名	要介護2			名
要介護3	3名	要介護4			2名
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2			名
年齢	平均 87.28歳	最低	82歳	最高	102歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たけとみクリニック/おがた眼科医院/前田歯科クリニック
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一角に立てられた有料老人ホームの2階に位置するホームである。同敷地内にデイサービスを併設し、福岡市内には、完全個室の介護老人福祉施設、複合施設、ケアハウス等の施設も併設しており、法人全体で高齢者へ安心と安らぎの場を提供している。ホーム内は、明るく落ち着いた内装やさりげない装飾品が配置され、心穏やかに過ごせる雰囲気がある。職員は熱意を持ってケアに従事し、職員の笑顔と優しい声かけで、利用者が自然とリビングに集い、笑い声の絶えない楽しい時間を過ごしている。利用者と職員が一つの家族のようにお互いに信頼し、安心と尊厳ある生活が営まれている。地域の夏祭りへの参加や散歩時に近隣の保育園を訪問し、地域の方や保育園児と交流が図られるなど、ご利用者が地域の中で自分らしく暮らし続ける支援を目指し、日々取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告を行い、職員はカンファレンス時に改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程で全職員が質の向上に向け、地域交流に積極的に取り組むなどの成果が見られる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の外部評価受審にあたり、外部評価項目の内容を全職員で確認するなどの取組みがある。また、自己評価内容や外部評価内容を重視し、項目を確認することで日常業務の見直しや質の向上に向けた今後の課題を検討するなど、職員への気づきを生み出す結果につながっている。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	自治会長、民生委員、行政の担当職員、家族等の参加のもとに2ヶ月毎に運営推進会議が開催されている。運営推進会議時に、ホームの活動状況や防火訓練についての報告、地域の防災訓練への参加について提案が出るなど、運営推進会議を活かした取組みがある。また、運営推進会議の内容については、全家族へ議事録を送付し報告を行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族の面会時の声かけや運営推進会議・家族会等を通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。また、運営推進会議議事録やホーム便り等の送付により行事の案内や報告を行っている。介護記録等は希望により家族に送付している。家族の面会時や運営推進会議などでは家族の意見や思いの表出に努めている。相談・苦情についての意見箱を設け、意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りへの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時や定期的に近隣の保育園への訪問、地域の夏祭り等への参加など、地域の人々との交流を図る取組みがある。また、散歩時の挨拶や食材・日用品の購入は近隣の商店街を利用するなど、積極的に地域の人々と交流を行う取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスになったことを受けて、既存の 理念を基に、全職員で協議し理念を再作成している。 また、日常的に地域の人々とのかわりに積極的に 取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に理念を掲示し、毎朝の申し送り時やカン ファレンス時に理念を唱和している。また、利用者も 一緒に唱和し、利用者と職員が思いをひとつにしが ら理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	散歩時や定期的な近隣保育園への訪問、地域の夏 祭り等への参加など、地域の人々との交流を図る取 組みがある。また、散歩時の挨拶、食材の購入や日 用品の購入は近隣の商店街を利用するなど、積極的 に地域の人々と交流を行う取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果について、運営推進会議時に報告 を行い、職員はカンファレンス時に改善についての協 議を行うなど、質の向上への取り組みがある。この過 程で全職員が質の向上に向け、地域交流に積極的に取 り組むなどの成果が見られる。今回、外部評価を実施 するにあたり、職員に評価項目の内容を確認し意見 を聞くなど、全職員がかかわる取り組みがある。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこの意 見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政の担当職員、家族等の 参加のもとに2ヶ月毎に運営推進会議が開催されて いる。運営推進会議時に、ホームの活動状況や防火 訓練についての報告、地域の防災訓練への参加につ いて提案がでるなど、運営推進会議を活かした取組 みがある。また、運営推進会議の内容については、全 家族へ議事録を送付し報告を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	疑問な点は、その都度、行政の担当職員に相談や助言を求める等、日常的に連携を図っている。また、行政の担当職員が、毎回運営推進会議に参加しホームの活動状況等について支援を行うなど、行政とともに質の向上に向けて取り組む姿勢がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で勉強会を行い、運営推進会議時に行政の職員から説明を行ってもらうなど、家族や職員に制度の理解を図るように努めている。また、家族の希望時は制度の活用を支援できる取り組みがある。		継続的な勉強会や運営推進会議等を通じて、職員への制度についてのさらなる理解の促進への取り組みを期待します。また、情報提供という意味も含めて、運営推進会議等を利用して、家族への繰り返しの説明を行い、制度の正しい理解と周知が図られることを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時の声かけや運営推進会議・家族会等を通じて、利用者の日常の様子や外出、行事参加の様子などを報告している。また、運営推進会議議事録やホーム便り等を送付し行事等の案内や報告を行う取り組みがある。介護記録等は希望により家族に送付するなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族会時の働きかけ、家族の面会時などを利用して、家族の意見や思いの表出に努めている。また、相談・苦情についての意見箱を設置し、意見や要望を言い出しやすい雰囲気作りへの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動等は最小限にとどめ、管理者が個人面談を行い職員一人ひとりの意見や希望を聞きながら改善に努める等の取り組みがある。新しい職員の採用時には、利用者が職員に馴染めるよう日中のみの勤務とし、利用者とのコミュニケーションを主にとってもらい、少しずつかわりを持ちながら馴染みの関係を築くような工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の採用に関して、年齢や性別等による制限は、何ら行われていない。調理や着付け、手工芸など職員一人ひとりの能力や趣味を活かし、やりがいを持って勤務していけるように支援している。また、資格取得を目指す職員に対しては、勤務の調整を行うなどの支援体制がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>法人全体として、行政から講師を招いての勉強会が開催されており、勉強会を通じて人権教育、啓発活動への取り組みがある。</p>		<p>行政等で行われる講話への参加や法人全体の勉強会や研修会への参加、事業所内での勉強会の実施等、人権教育や啓発活動への継続的な取り組みに期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の希望や、管理者が研修内容と職員のスキルや経験等を考慮し、外部研修への参加の機会を確保している。毎月のカンファレンスにて受講報告会を行い、知識の共有に努めるなどの取り組みがある。また、外部研修の参加や資格取得のための研修に参加する場合も、勤務の調整を行うなどの支援体制がある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に加入しており、協議会主催の勉強会や同業者との交流、地区のブロック内での意見交換会などを通じて、他の事業所の意見や経験を活かす取り組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員による利用者の自宅訪問やホーム見学、体験入居などを通じて、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取り組みがある。新しい利用者には、テレビを部屋に置かないよう工夫し、できるだけリビングで過ごしていただきながら他の利用者とのかわりを多く持つなど、職員がコミュニケーションを密に取りながら徐々に馴染みの関係を築く取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	梅酢や梅干し、ジャム等の作り方、昔の風習を教えってもらうなど、自然と学び共に支えあう関係づくりへの配慮がある。また、ホームの理念を利用者と共に唱和するなど、利用者を尊重した対応がある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者との日々のかかわりの中から、利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努め、家族の面会時や運営推進会議などを通じ、家族の意向などの把握に努めている。また、介護記録や会議等を通じて情報を共有し、職員全員で話し合いながら、意向や希望を確認し介護計画に反映させるなどの取り組みがある。		利用者の生活を支援するためのアセスメントとして、センター方式等を活用し、本人・家族の思いや暮らし方への希望などを把握・共有し、利用者本位の支援への更なる取り組みを期待します。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日々のかかわりを通して、利用者の希望の把握に努め、家族の面会時の声かけなど通じて、家族の思いや意向の把握に努めている。職員間のモニタリングや月1度のカンファレンス時に他の職員からの情報を把握し、介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のミーティング時に本人の状況や様子、支援の方針等の情報交換や共有を職員全員で確認している。また、6ヶ月毎及び状態変化の際は、利用者、家族の意向や希望の確認を行い、介護計画書の見直しや再作成を行うなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支援 をしている	医療連携体制を活かした協力 医療機関による往診や訪問 看護ステーション等との連携 支援、かかりつけ医や眼科・ 皮膚科等への受診介助を行 うなど、利用者の状況や家 族の要望に応じて、柔軟に 対応している。また、個別 に利用者の自宅への外出支 援を行うなどの取り組みが ある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大 切にし、納得が得られたか かかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医 療を受けられるように支援 している	主治医について、契約時に 本人・家族の意向を聞き、 個別のかかりつけ医への受 診又はホーム協力医より、 定期的な往診がある。また 、看護師の資格をもつ職員 による利用者の状態把握を 行い、利用者の状態に 応じて協力病院への受診の 支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方 針の共有 重度化した場合や終末期の あり方について、できるだ け早い段階から本人や家族 等ならびにかかりつけ医等 と繰り返し話し合い、全員 で方針を共有している	状況に応じて重度化や終末 期における対応を説明し、 利用者の意思をふまえた上 で、家族等の意向を書面で 得ている。状況の変化に伴 い、その都度家族、主治 医、事業所を交えて協議し 、方針を共有していく取 組みがある。		できるだけ早い段階での働 きかけを行い、今後予想さ れる状態変化に応じた話し 合いや、本人・家族の希望 に沿った更なる支援への取 組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	朝の申し送り時に利用者と共にホームの理念を唱 和するなど、日常のかかわりの中で常に尊厳を持っ た支援を心がけている。タイミングを見計らってのさり げない声かけ、丁寧な呼称、視線を合わせて笑顔で 傾聴するなど、入居者の誇りやプライバシーに配慮し た対応が見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての大まかな一日のスケジュールはある もののそのときどきの気持ちを尊重し、決して無理強 いせず、様子を見ながら声かけを行っている。また、 利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、食事を取 る場所、食事にかかる時間、居室で過ごすタイミング など、利用者のペースや気持ちを尊重した対応が見 受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	食材の買出しや野菜の下ごしらえ、下膳、洗濯物た たみなど、利用者一人ひとりができる範囲で協力しな がら行うなどの取組みがある。また、利用者、職員共 に食卓を囲み、ゆったりと和やかな雰囲気の中で食 事を楽しめるような取組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午前から夕方近くまでの時間帯で、一日おきの入浴 であるが、毎日の入浴も可能であり利用者の希望や 状況に応じて柔軟に対応している。入浴拒否の利用 者には、無理強いせず、入浴時間をずらしたり、声か けを工夫するなど、快く入浴していただけるような支 援を行っている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	日々の会話の中から、利用者の興味や関心がある ことなどを聞きながら、利用者に応じた役割や楽しみ ごとなどへの支援をしている。梅酢やジャム作り、料 理の下ごしらえ、下膳、洗濯物たたみなど、利用者一 人ひとりの持っている能力を生かすような取り組みがあ る。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の散歩や近隣の商店街への買い物、他のホー ムや市主催の文化祭、地域行事への見学参加など、 積極的に外出を行っている。また、利用者の希望に 沿って、定期的に車椅子の利用者も安全かつ快適に 外出支援を行う取り組みがある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されている。きめ細かな観察により 外出傾向のパターンを把握し、利用者と一緒に出か けたり、1階での法人職員による見守り、また防犯セン サーの設置など、利用者の自由と安全のバランスに 配慮しながら適切に支援している。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	ホーム内に防災委員会があり、災害時マニュアルを 作成し全職員が非常災害時の際の対応について確 認している。年2回の避難訓練を通じて、避難訓練の 誘導方法や確認、消火器の使い方等を学ぶ取組み がある。運営推進会議時防災訓練の報告を行う際、 災害時の近隣住民の協力を得るための働きかけを行 う取り組みがある。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	法人内の施設のメニューを参考にし、カロリーや栄養 のバランスを考慮しながらメニューを作成している。食 事・水分摂取量を把握し、記録を行うなど、状況に応 じて支援を行うなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下に季節感を感じる飾りつけや利用者の外出先での写真等を掲示するなど、居心地良く過ごせるような工夫が見られる。リビング内はほど良く採光されており、食卓の他にもソファを配置し、ゆっくりとくつろいでいる利用者の姿が見受けられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はベッド、クローゼットが備え付けられており、床はフローリングか畳を選ぶことができる。利用者・家族が相談して寝具や家族の写真、調度品など、利用者にとって馴染みの物が持ち込まれており、居心地良く過ごすための居室作りへの工夫や配慮が見られた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号